

## 北本市子どもの権利に関する市民意識調査報告書について

(主な) 調査項目	対象と掲載ページ			調査結果	
	対象	報告書	概要版		
(イ) 子どもの状況	①悩んでいることは何か	小学生	P4	P2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学生から中学生になる時点で、悩みごとの件数自体が増加している。→自我の確立と同時に、悩みごとが増加する傾向。</li> <li>●中学生で増加する悩みは、「親とのかかわり」、「友だちのこと」、「学校の勉強」、「受験・進路」、「将来のこと」、「自分の容姿や性格」。減少するのは、「いじめ」のこと。</li> <li>●高校生相当年齢でさらに増加する悩みは、「受験・進路」、「就職・将来のこと」、「自分の容姿や性格」。高校生相当年齢になると、「いじめ」の悩みはさらに減少。</li> </ul>
		中学生	P23		
		高校生相当年齢	P41		
		大人	-	-	
(イ) 子どもの状況	②悩みごとを誰に相談するか	小学生	P5	P3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学生は、「父母」が77.1%とトップであるが、中学生以降はトップが「友だち」に切り替わっている。</li> <li>●どの年代でも「父・母」、「友だち」、「学校の先生」、「兄弟姉妹」、「祖父・祖母」が上位5つで、子どもの相談先はほぼこの5つが独占している。</li> </ul>
		中学生	P24		
		高校生相当年齢	P57		
		大人	-	-	
(エ) あなたの様子について	③いま夢中になれることは何か	小学生	P6	P4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高校生相当年齢になると、全体的に夢中になれるものに対する回答件数が少なくなる。大人に近づくにつれて、夢中になれるものが減少する傾向か。</li> <li>●むしろ大人のほうが、子どもが夢中になっていると回答する割合が高い。</li> </ul>
		中学生	P25		
		高校生相当年齢	P42		
		大人	P71		
(エ) あなたの様子について	④将来なりたいものはありますか	小学生	P7	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学生では70%以上の方が将来なりたいものがあると答えているが、中学生以降は50%に減少している。成長して現実に直面する中で、将来なりたいものがわからなくなる様子。</li> </ul>
		中学生	P26		
		高校生相当年齢	P43		
		大人	-		
(エ) あなたの様子について	⑤思いや考えがあるとき、それを言うことができるか	小学生	P8	P5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭に対しては、どの年代でも約8割が「自分の意見を言うことができる」と回答。</li> <li>●学校に対しては、言うことができる割合が、小学生は74.7%、中学生は66.8%、高校生相当年齢は53.8%と年齢が上がるにしたがって減少する傾向。</li> <li>●地域の行事や市役所の仕事については、全体的に「言うことができる」と答えた割合は低い。</li> </ul>
		中学生	P27		
		高校生相当年齢	P44		
		大人	-	-	
(ウ) 子どもの生活の場について	⑥普段の生活の中でほっとできる場所	小学生	P12	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学生は、「家族と過ごす部屋」が約8割でトップであるが、中学生以降は「自分の部屋」が8割以上でトップになる。高校生相当年齢になると「家族と過ごす部屋」は約5割と下がっている。</li> <li>●「学校の教室」は、小学生は約30%、中学生は約25%、高校生相当年齢は約20%。</li> <li>●「友だちの家」は、どの年代でも12~13%程度。</li> <li>●大人調査では「家族と過ごす部屋」が87%と、子どもの回答より高い認識。</li> </ul>
		中学生	P28		
		高校生相当年齢	P48		
		大人	P85		
(ウ) 子どもの生活の場について	⑦普段の生活の中で自分の好きなことをする時間や場所はあるか	小学生	P13	P6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●どの年代でも約9割が「ある」、「まあまあある」と回答。</li> </ul>
		中学生	P29		
		高校生相当年齢	P49		
		大人	-	-	
(ウ) 子どもの生活の場について	⑧「子どもの権利」の認知度 「北本市子どもの権利に関する条例」の認知度	小学生	P15~16	P8	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの権利について「聞いたことがあり、内容も知っている」と「聞いたことがあり、内容を少しだけ知っている」の合計は、小学生27.4%、中学生33.2%、高校生相当年齢48.5%、大人38.1%。</li> <li>●北本市子どもの権利に関する条例については、小学生10.4%、中学生9.8%、高校生相当年齢8.2%、大人16.7%と、市条例の認知度は、まだ低い状態。</li> </ul>
		中学生	P30~31		
		高校生相当年齢	P51~52		
		大人	P104~105		

## 北本市子どもの権利に関する市民意識調査報告書について

(主な) 調査項目	対象と掲載ページ			調査結果
	対象	報告書	概要版	
⑨条例で定められている保障されなければならない「子どもの権利」のうち、まだ十分でないと感じるものか何か	小学生	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「あらゆる差別及び不当な扱いを受けないこと」、「困っていること及び不安に思っていることについて相談できること」、「個性が認められ、人格が尊重されること」がどの年代でも高めで、十分でないと感じている人が多い傾向。</li> <li>●一方、「健康に配慮がなされ、適切な医療が受けられること」、「平和及び安全な環境の下で生活できること」、「あらゆる搾取から守られること」、「自らに関する情報が不当に収集され、利用されないこと」がどの年代でも低めで、十分でないと感じている人は少ない傾向。</li> </ul>
	中学生	P32		
	高校生相当年齢	P53		
	大人	P110		
⑩相談先の利用度と認知度	小学生	P17	-	<p>※悩みごとの相談先に出てきた上位5つ（父・母、友だち、学校の先生、兄弟姉妹、祖父母）以外の公的な相談先に関する認知度・利用度の質問。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●小学生の認知度は、「虐待対応ダイヤル189（67.3%）」、「スクールカウンセラー（50.6%）」、「教育センター（49.7%）」がトップ3。利用度は、いずれも0～1%程度。</li> <li>●中学生の認知度は、「さわやか相談員（86%）」、「スクールカウンセラー（78.2%）」、「虐待対応ダイヤル189（75%）」がトップ3。利用度は、「スクールカウンセラー（5.7%）」、「さわやか相談員（5.3%）」、「教育センター（2.5%）」。</li> <li>●高校生相当年齢の認知度は、「スクールカウンセラー（81.9%）」、「さわやか相談員（76.6%）」、「虐待対応ダイヤル189（72.5%）」がトップ3。利用度は、「さわやか相談員（5.8%）」、「スクールカウンセラー（4.1%）」、「スクールソーシャルワーカー（1.8%）」。</li> <li>●大人の認知度は、「スクールカウンセラー（81.7%）」、「市役所の子育て支援総合窓口（70.4%）」、「さわやか相談員（69.7%）」がトップ3。利用度は、「市役所の子育て支援総合窓口（13.7%）」、「スクールカウンセラー（6.3%）」、「教育センター（5.1%）」。</li> <li>●学校に設置されている「スクールカウンセラー」や「さわやか相談員」は、子どもにとって認知度も高く、利用度も高い。大人は「市役所の子育て支援総合窓口」が認知度・利用度ともに高い。「虐待対応ダイヤル189」は、利用度は低いものの、どの年代の子どもにも認知度が高い。</li> </ul>
	中学生	P33		
	高校生相当年齢	P56		
	大人	P113		
⑪相談するときに大事なことは	小学生	P18	P7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学生は「相談内容の秘密を守る（67.6%）」、「解決するまで、しっかり味方になってくれる（67.4%）」がほぼ同率でトップ。</li> <li>●中学生は「相談内容の秘密を守る（72.5%）」がトップで、「子どもだけでも直接相談できる（61.1%）」、「解決するまで、しっかり味方になってくれる（61.5%）」がほぼ同率で第二位。</li> <li>●高校生相当年齢は「相談内容の秘密を守る（61.4%）」、「匿名で相談できる（61.4%）」が同率でトップ。</li> <li>●大人は「相談内容の秘密を守る（76.7%）」がトップ、「匿名で相談できる（71.2%）」が第二位。</li> <li>●「相談内容の秘密を守る」はどの年代でも大事なことに挙げられている。年齢が低い子どもは「解決するまで、しっかり味方になってくれること」の割合が高い。年齢が高くなると「匿名で相談できる」を大事にする割合が高い。</li> </ul>
	中学生	P34		
	高校生相当年齢	P58		
	大人	P126		
⑫普段の生活の中で、子どもの権利がまもられていると感じるか	小学生	P19	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「感じる」、「どちらかといえば感じる」と答えた人の割合は、小学生は69.4%、中学生66%、高校生相当年齢52.6%、大人50.3%。</li> <li>●年齢が低いほど、「子どもの権利が守られている」と感じている人の割合が高い。</li> </ul>
	中学生	P35		
	高校生相当年齢	P59		
	大人	P128		